所沢市立美原中学校

学校だより No８

令和４年度　第８号
１２月８日（木）

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

『絶対に負けられない戦いが、そこにはある！！』

現在カタールのドーハで開催されています。【前略】

古い話ですが１９６４年の東京オリンピック以来、日本のサッカーは、低迷期を続けていました。しかし、その打開策として、日本サッカー協会は、１９９３年の５月１５日に華々しくＪリーグを開幕させ、サッカー人気に火が付きます。その後、１９９８年「FIFA ワールドカップ」フランス大会で初めてのワールドカップ出場を果たし、２００２年の「FIFA ワールドカップ日韓大会」へとつながっていきます。ちなみに２００６年のドイツ大会の優勝国は、イタリア。２０１０年南アフリカ大会の優勝国は、スペイン。２０１４年ブラジル大会の優勝国は、ドイツ。２０１８年ロシア大会の優勝国は、フランスとなり、日本は、２０２２年の今大会を含め、４回決勝トーナメントに進んでいますが、すべて１回戦を突破できず、今日に至っています。しかし、この結果をお話ししたのは、いかに今大会の結果が難しかったのかを感じてもらうだけでは、ありません。このように高みを目指す人の行為は、目指す人が高い目標を掲げられる幸せと、その目標に向かう苦悩、そして、それを乗り越えようとする本気の努力は、周りの人まで巻き込み、希望と勇気を与えることをお伝えしたいのです。

実は、日本代表は１９９３年１０月に、このカタールのドーハの地で試合をしています。２９年ほど前、「FIFA ワールドカップ」アメリカ大会、アジア予選のこの最終試合でイラク代表に勝てば、アジアの代表枠の１位通過を果たし、初のワールドカップ出場が決まるという状況でした。この試合を優勢に進めながらも、後半のアディショナルタイムに最後追いつかれ、試合を引き分けにされ、初のワールドカップ出場を逃してしまいます。その瞬間、日本のサポーターの頭の中が白くなり、現実を受け止めらなれなかったのです。これが後に「ドーハの悲劇」と呼ばれ、その時に現在の日本代表を率いる森保監督もピッチの中にいて悔しい思いをしたはずです。

当時の日本では、ワールドカップに進むには、アジア予選も厳しい状況でした。世界の舞台に立つために日本は、アジアのライバルたちにまず負けられない。そんな思いから生まれたキャッチコピーが『絶対に負けられない戦いが、そこにはある』だと聞いています。サッカーというスポーツは、想定外とかアクシデントがかなり起こりうる世界ですので、気持ちを奮い立たせる意味でも、『絶対に負けられない戦いが、そこにはある』と皆の思いを共有するために生み出された言葉ではないかと推察されます。某放送局で、１５年ほど前に生み出された言葉だといわれますが、“ここ一番”でしか使わない重みのある言葉として、あります。日本代表の試合冒頭で川平慈英さんのこの『絶対に負けられない戦いが、そこにはある』のキーワードの絶叫とサッカーの代表曲が入場とともに流れると、心が躍ります。

さて、話しは、変わりますが、私は以前、たまたまの縁でサッカー日本代表関係者とお話しをする機会を得ることがありました。その時うかがったのは、正に選手たちが日の丸を背負って本気で命がけで戦う姿は、大変厳しいということです。海外の天候の変動や衛生面、食事の食材や水、選手が寝させてもらえ

ない夜通し騒ぎの続く相手サポーターの存在など、過酷な環境や様々なアクシデントなど多くの乗り越えなければならない課題もあることも知りました。

【中略】夢を持ちながら厳しいメンバー選考に残り今回のメンバーに選出された選手は、きっと誰よりも「新しい世界を観たい」「観せたい」「歴史を変えたい」と強く思ったはずです。今回のワールドカップで予選リーグの組み合わせが決まったとき森保監督は、謙虚な中にも力強いコメントを述べています。「過去に優勝している国や世界の強豪と戦えることを光栄だ」と言っています。スペインとドイツは、優勝経験国。決勝リーグで戦ったクロアチアは、前大会準優勝国です。そのような中で、今回、日本は、予選リーグ、グループＥに入りました。このように強豪がひしめくリーグのことをサッカーでは、「死のリーグ」と称されます。それを予選リーグ１位で通過したのです。すごい結果ですし、快挙です。２９年間積み重ねてきた多くの人の強い思いと誇りに敬意を抱かずには、いられません。ここに来るまでにどれくらいの人があきらめない努力がなされたのでしょう。この強い思いをただの精神論として、軽くとらえてほしくはないのです。強い願いと思いが、あっても、負ければ厳しい言葉にさらされ、勝てばすべてが良かったように解されてしまう勝負の世界です。しかし、それさえも監督をはじめ選手もポジティブに捉え堪える術を持って戦っていました。私は、このことを観てほしいのです。『絶対に負けられない戦いが、そこにはある』といいますが、ここまでの話で、すでに気が付いた人もいるかもしれませんが、私たちは、負けても、負けても立ち上がる術を身に着けていることが必要だと、歴史が教えてくれているのだと思います。日本は、「思う一念岩をも通す」ということわざがあります。強い信念をもって物事にあたれば、どんなことでも成し遂げられるという意味です。決して負けないという意味ではありません。人は、「何度も立ち上がれるんだ」と受け止めてほしいのです。

次の世代を担うのは、皆さんです。今日は、サッカーの話を中心にお話ししましたが、皆さんが各々に目指す目標が見つかり、努力する強い意志と願いをもって実践できる場があることを切に願っています。それと同時に、その目標に到達するためには、必ず苦しく厳しい局面があることを覚悟するとともに、その努力を本気で挑む人には、必ず応援してくれる人が現れることを知ってほしいと思いで今日は、お話をさせてもらいました。　これからも私たちは、皆さんを応援し続けます。　　R4.12.8.　全校朝会より

校長見聞録

日本代表のスケールで話しした後の私事で大変恐縮だが、私も、今まで、どうしてもやり遂げなくては、ならない場面に何度か直面してきた。そんな時、よく私の祖父が小学生の私に「雨垂れ岩を穿つ（あまだれいわうがつ）」という言葉を何度も刷り込まれるように教えられた。当時の私は、その話を聞けばプラッシーというお米屋さんにしかないジュースのご褒美がもらえるので、何度もその話しを聞いていた。この意味は、これも朝会でお話しした話と同様で「一滴の雨のしずくでも、長い年月の間その一点にあてれば岩にも穴をあけることができるのだ」と教え込まれた。今は、祖父に感謝してる。ジュースも含め！！

朝の連絡時間のお願い

朝の連絡時間のお願いです。本校では、生徒の欠席等の連絡を様々な事象を鑑みて、現在、電話でいただいています。利便性だけを考えれば、メール等の導入もありますが、安全確認を優先し、会話での確認をさせていただいています。朝の会議の時間が８時１５分～８時３０分になりますので、７時３０分以降で、朝の会議の時間をできるだけさけてお願いいたします。

どうぞご理解とご協力をお願いいたします。